

# 2020 年度事業報告

学校法人いっぴな学園

## I. 法人事務局事業報告

### 1. 2020 年度の概要

本年度は、新型コロナウイルス感染症の対策に休園、休校でのスタートであった。休園休校中は、ズームによる授業やYouTubeによる配信など手探りでの挑戦となった。6 月からは保育、授業を再開したものの、消毒や健康チェックなど対策や様々な制限のもとでの教育活動となった。

学校保健特別対策事業費補助金として、保健関係、授業の質向上のための ICT 化などについて補助金が準備されたので、学校幼稚園とも対策費として活用した。

### 2. 事業報告

- 1) こどもの森幼稚園からグリーン・ヒルズ小学校への入学児童は確保ができなかったが、グリーン・ヒルズにおける自然体験活動は前年に比べて増加した。また、河川財団からの助成を受けて、学園職員全員が水辺の活動に対する安全確保などについての研修を受講し、資質向上に繋げた。
- 2) 「親子自然教室」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて次年度へ延期とした。
- 3) こどもの森幼稚園子育て館「野愛」の報告は幼稚園の報告を参照。
- 4) 飯綱高原スキー場の跡地の活用として「飯綱自然体験パーク(仮称)」の開設要望については、地元有志が「づなっち広場」としてそり遊び場を開設したため、小学生が現地を利用し、開設者に利用や遊び方の工夫などについて提案を行った。
- 4) 施設等整備については、危険木の伐採を随時行い、自然体験の森の整備も緑の少年団助成を利用して行った。グリーン・ヒルズのビオトープ再生は整備途中となったが、校舎屋根水漏れ対策の修理工事は終了した。

### 3. 次年度への検討課題

グリーン・ヒルズの児童生徒の確保が継続的課題である。特に中学校生徒を確保することが望ましいが、中学校からの途中転入は対応が難しい場合があり、幼小中と継続して進学する園児児童の確保を検討することが最大の課題である。

## II. こどもの森幼稚園事業報告

### 1. 概要

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、年度当初に休園を余儀なくされた。しかしながら、屋内での密状態を避けることが感染対策に繋がる点から、野外での教育活動が主である強みを活かして野外活動を中心に活動を展開した。また、信州型自然保育の特化型施設としても継続して活動した。

2020 年度に行った事業は以下のとおりである。

- 1) 自然保育を活動の中心において、小学校への接続も視野に入れた幼児教育を行った。
- 2) つぼみ子育てサロンは、9月まで1回ごとに参加できるようにして開催し、9月からはその形態を引継いだ1 DAY 会員を創設した。活動場所は、野愛を中心として幼稚園活動を見ることができるようにし、つぼみ参加者から幼稚園へ入園する子どもの確保に努めた。
- 3) コロナ禍ではあったが、感染症対策を行って未就園児対象のオープン DAY を春と秋それぞれ2回、合計4回開催した。
- 4) 次年度の畑活動の充実に向け、壊れた耕運機新規導入のための寄付募集を行い 14 件 655,000 円が集まった。

## 2. 2020 年度の教育における重点目標の達成度

本年度の重点目標を以下のとおりとし、結果として保護者評価 B+（あてはまる）、教員評価 B（ややあてはまる）となった。

- 1) 自然体験を中心においた教育の充実を図る
- 2) 園児、保護者及び教職員の個々の考えを大事にし、お互いの意見を尊重しながら主体的・対話的により良い人間関係の構築を目指す

## 3. 2019 年度事業の報告

### 1) 自然体験を中心においた教育の提供

元来、自然体験活動が中心の教育を行っていたが、本年度は感染症の対応として春～夏にかけて荒天時以外は野外で活動を行った。これにより、子ども達の自然の観察力・体力・人間関係などが例年以上に向上したと感じた。

### 2) 人間関係の構築

子どもたちの人間関係を丁寧にとり、お互いの違いを知って理解して認め合うように指導した結果、仲間としての絆が深まった。特に、青さん(年長児)の卒園劇でその成果が発揮され、飯縄山に棲む様々な動物たちがお互いを認め合い皆の命が大切なものであることを伝える内容となった。

### 3) ケガの対応、苦情対応のマニュアルの作成

ケガなどの災害発生時の対処及び保護者からの意見や苦情受付時の対処については、ある程度マニュアル化した。事例を整理し、保護者が納得できる対応を行うためのマニュアル作成には至らなかった。ただ、近年において、保護者の相談・苦情内容が多岐に及ぶ点、保護者の感染症と行事に対する想いが様々である点などを考慮するとマニュアルでは対処しきれないのではないかと考え、とりあえずは一つ一つに対して対処する方向とした。

### 4) こどもの森子育て館-野愛(のあ)の活用

一期は感染症の関係もあり、活用することはなかった。二期に入って9月以降、つぼみ子育てサロンを中心に活用を開始し、幼稚園保護者の会議や誕生会の出し物の練習などに活用した。今後、更に一般に開かれた子育てに関する企画を立案し、子育て中の親子の親睦を図るための活動場所として活用していく予定である。

#### 5) 園活動の見直し

今年度は感染症の関係もあり、密を避けるために行事のやり方について見直しを余儀なくされた。具体的には、一つの行事を二回に分けて行う、時間を短縮して行うなどの対応をした。短時間で仕事に就く保護者も更に増えていることを勘案しながら、本園ならではの行事を滞りなく開催し、保護者の参加と協力を確保できるよう更に行事のあり方とやり方を検討していくことが必要と考える。

#### 6) 年長児のスキーへの対応

飯綱高原スキー所の閉鎖に伴って年長児のスキー活動が心配されたが、いづなりリゾートスキー場やサクラメントプロ・スキー・スクールのご協力を賜り、無事に例年通り開催できた。

### 4. 次年度への検討課題

- 1) 今年度整備予定としていた園庭及び園庭遊具の整備、園庭遊具用のハーネス・ヘルメットの整備が感染症や器具選定で滞っているため、次年度も引き続き検討及び整備を行う必要がある。
- 2) こどもの森子育て館「野愛」周辺の園庭整備は、つぼみ子育てサロンの活動に合わせて少しずつ行っている。しかしながら、外水道の整備が間に合っていないため、次年度の泥遊び時期前に整備する必要がある。
- 3) その他の検討事項として、子育て館「野愛」の活用についての企画計画、更に多様化する保護者の意見や就労状況に対して幼稚園活動への参加・協力を促すための丁寧な説明を検討していく。
- 4) 世界的に子どもを取り巻く自然環境や社会情勢が刻々と変化する中で、「子育てする上で知っておいた方が良い情報」を発信・共有する必要があると考える。そのため、保護者活動において『地球の暮らし、世界の暮らし、日本の暮らし、今ここで私たちの暮らし』というテーマを設定し、未来の子どもに残す暮らしを考える活動を展開する必要があると考える。

## Ⅲ. グリーン・ヒルズ小学校事業報告

### < 学校教育目標 >

相互の関係性を基盤にして、一人ひとりの自律性を育む

#### 1. 概要

新入生 5 名 転入生 2 名 を迎え、22 名 となり、2 学年 ごとの 3 クラス 編成 とした。異年齢 と 同年齢 の 集団 の それぞれ が 持つ 良さ を 活用 する こと が でき た。

新学期 から 新型コロナウイルス の 感染 拡大 防止 の ため、4 月、5 月 は、15 日間 の 短縮 授業 及び 分散 登校 を 行っ た。また、この 間 は、課題 等 の 郵送 や Zoom、YouTube による 学習 指導 を 行っ た。教職員 も 初めて の 経験 で、手探り の 状態 で は あっ た が、保護者 の 方々 に ご協力 いた だき、自宅 での 学習 を 進める こと が でき た。

豊かな 自然 環境 を 活か した 「自然 体験 活動」の 充実 を 目指 して きた。県 の 森林 税 を 活用 した 学校 林 利活 用 促進 事業 で は、自然 観察 の ため の センサー 付き 暗視 カメラ や のこぎり、一輪車 など 多数 の 資材 の 支援 を 頂い た。また、伐採 整備 した カラマツ を 大型 の バンドソー で 製材 する 体験 も でき、これ を 使っ て 巣箱 づく り も 行っ た。人と 自然 の つながり を 体験 し 感じる 機会 と なっ た。

## 2. 2020 年度の活動内容の報告

### 1) 自然体験活動の充実と「プロジェクト」による探究力の育成

休校及び分散登校を経て、6月に学校が再開した。春の時期に自然体験活動ができなかったが、8月の職員研修の内容を活用し、浅川探検など新たな取り組みもできた。また、学校林の伐採木を製材しての巣箱作り、野鳥観察、りんご園プロジェクト、スキー学習、飯綱山登山などを通して、自然とのかかわりだけでなく、地域とのつながりや人との関わりなどを進めてくることができた。

また、りんご園プロジェクトでは、長沼地区における台風 19 号の被災や復興の状況を学び、「復興支援プロジェクト」を立ち上げ、新たなつながりの構築と自然と人の暮らしなどを考える機会となった。

### 2) 基礎学習の充実

2 学年の複式学級編成にし、集団での学習が進めやすくなった。セミナー形式の授業では、実験やグループでテーマを選び調べ発表するなど学び合う学習となるよう実施した。個別学習では、自ら計画を立てて進められるよう、学年や経験に応じて丁寧な指導を行った。

### 3) 自治活動の重視

グリーン・ヒルズをより良い学校にするために、一人ひとりが考え意見を出しあい実行していくことを大切に、イニシアチブタイムやスペシャルタイム、グリーン・ヒルズ会議などに取り組んだ。

### 4) 「個に応じた指導」「集団を生かした指導」の充実

研究授業の実施には至らなかったが、教員間で、それぞれのクラスの状況を共有しより良い授業に向けて研修会を実施した。

### 5) 国際社会での発信力の育成

国際化社会に対応した力をつけるために、英語力、特にコミュニケーション力を重視したが、目指す姿の具体化がまだ不十分で今後の課題である。

## IV. グリーン・ヒルズ中学校

### 1. 概要

新入生 3 名を迎えたものの、家庭の事情等により年度途中で 2 名が転出し、在籍 6 名の少人数となって大きな課題を残した。

新学期から新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4 月、5 月は、15 日間の短縮授業及び分散登校を行った。また、この間は、課題等の郵送や Zoom、YouTube による学習指導を行った。教職員も初めての経験で、手探りの状態ではあったが、保護者の方々にご協力いただき、自宅での学習を進めることができた。(小学校の項に同じ)

花王みどりの森財団の助成金を頂き、荒れてしまった学校ビオトープ再生事業に取り組んだ。活動期間の短さもあり、十分な成果を上げられず課題を残した。

## 2 .2020 年度の活動内容の報告

### 1) 自然体験活動の充実と「プロジェクト」による探究力の育成

身近な自然を通して多角的視点で考える力をつけるプロジェクトへの期待をもって、荒廃した学校ビオトープの再生にクラスで挑戦した。しかしながら、十分な時間が取れなかったこと、クラス内の関係づくりにつまずきがあったことで、活動の展開が不十分となった。個人プロジェクトでは、城郭研究やマイクロプラスチ

ックの問題等それぞれの興味から研究を深めることができた。

#### 2)プログラミング教育の充実

信州大学の西先生のご指導を頂き、プログラミングに挑戦した。プログラミングによる論理的思考の育成を目指しているが、取り組みにとどまった。

#### 3)基礎学習の充実

少人数による個別学習を中心に進め、講師の先生方の協力により教科学習の充実が図れた。3年生3名の進路については、それぞれの願いに沿えたが、進路指導の在り方を含めて検討していく必要がある。

#### 4)自治活動の重視

グリーン・ヒルズ会議の司会進行、また行事のホストリーダーなどで、中心となって会を進めた。小学生の意見を聴き、丁寧に説明し相談を進める姿にグリーン・ヒルズの年長者としてのやさしさやたくましさを感じられた。異年齢での話し合いが力となっている。

### 3.設備・危機の整備(小学校、中学校共通)

1) 南側校舎棟との階段の水漏り補修のため屋根の修繕工事を行った。合わせて、ベランダの防水工事、1階トイレの修繕工事を実施した。

#### 2) 自然観察用機材及び木工作機械の整備

概要欄に記載の通り、県の学校林利活用促進事業で木工作の道具や観察用資材などの支援を頂いた。また、花王みどりの森財団の助成金により、ビオトープの整備のためにチップパーなどの資機材の整備をした。

#### 3) 校庭樹木及び校庭の整備

校地内の危険な樹木などについて点検を行い、危険木を伐採、整備した。

### 4.グリーン・ヒルズの次年度への課題(小学校、中学校共通)

1) 学園の理念、教育目標の具現化に向けて、グリーン・ヒルズでつけていく力をより具体的に整理し、教員間はもとより子ども、保護者とも共通の理解をしておく必要がある。

2) 児童生徒の確保が最大の課題である。幼稚園、小学校、中学校の連携を図るとともに、教育内容の一貫性などをアピールできるよう、広報活動にむけて学校案内などパンフレットの見直し、ホームページのリニューアルを進める。

3) 少ない教職員での学校運営になるので、一層の教員間の情報共有と協力、連携ができるようなチーム作りが必須である。